

住吉海岸(仮称)懇談会意見

原因について

中項目	内 容	回 答
砂が供給しない要因	1. 砂の供給源の問題(ダムで堆砂)。	ダムでの堆砂の影響は、砂浜の減少の要因の一つと考えています。この解決により供給を増やすことができないかということも同時に考えていく必要があると思っています。
明らかにして欲しいこと	1. 全国的傾向はどうか(消失)。	原因は様々ですが、海岸の侵食が進んでいるところは全国各地にあります。他の地域の様子については、整理した上で、情報提供をしていきたいと思っています。
	2. 砂浜の消失。	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	3. 砂浜消失の要因	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	4. 住吉浜と富田浜の違いはなぜ。	富田浜が堆積傾向なのは一ツ瀬川左岸の導流堤で北から南へ卓越している沿岸漂砂の動きを阻害していることや浚渫土砂を置いているためと考えられます。これに対して、住吉の浜は、河川からの土砂の供給の減少と沿岸漂砂の供給源が砂浜そのものしかないことによると考えられます。
原因	1. 対策のありかたについて。港、ダムが原因であると明言されていた。ならば、港、ダムへの対策は、なぜ何もされないのか。	例えば、砂の供給の増加につながるダムの堆砂対策などについては、河川環境の点からも問題がありますので、行政の関係各機関のなかでどのような問題があるのか等についての整理を始めているところです。
	2. 侵食の原因は地球温暖化によらないか。	侵食の原因と地球温暖化が直接的な因果関係があるかはわかりません。ただ、今後海面上昇や気温の上昇による気候の変化などが予想されていますので、侵食に対しても何らかの影響があるかもしれません。
	3. ダムが原因では？	砂の供給量の低下も海岸侵食の原因の一つと考えておりますので、ダムによる影響もあると考えます。
原因	侵食の原因は、港の防波堤にあると思う。海流は南から北へ、港が原因ですべての工事が無駄である。	県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、海岸侵食は、港の建設前から進んでいたため、原因は複合的であると考えています。なお、今回の検討箇所付近の海流(沿岸流)は北から南への流れが卓越していると考えています。
原因	原因は？	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	原因は？そのまま護岸工事すべき？	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	侵食の根本原理。	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	増林したことで、風が吹かなくなったのが原因では？	
	地盤沈下で佐土原町民は「海水入水道水」を飲まされている。	水道水については、塩分濃度(塩化物イオン濃度)についても、定期的に水質検査を行っており、安全で安心な水道水の供給に努めています。また、取水口の年平均塩分濃度(塩化物イオン濃度)は、問題なくほぼ横ばいで推移しております。
要因	以前の護岸工事により、侵食が加速した。	
	砂流出の真の原因を早く分析して対応策をしないと台風などでの被害が心配だ。	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	港の施設ができてから砂の流出が始まったのではないのでしょうか？	県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、海岸侵食は、港の建設前から進んでいたため、原因は複合的であると考えています。
	海に突き出たコンクリートの突堤が砂流出の原因の一つでは？昔は何もなかった。	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	防風林が出来たため、陸に上がった砂が海の方(砂浜)に戻らなくなった。	
	砂が無くなった原因の改善ができないかの検討をまずすべきではないか。(例:宮崎港、ダム等)	例えば、砂の供給の増加につながるダムの堆砂対策などについては、河川環境の点からも問題がありますので、行政の関係各機関のなかでどのような問題があるのか等についての整理を始めているところです。
	なくなっている砂はどこへ行っているのか？	正確な量や割合はわかりませんが、沖合いへの流出や港周辺に堆積しているものと考えられます。
	宮崎港の影響で海流の流れが変わって、住吉海岸をえぐって砂を港の方へ送っているのであれば、港の工法、必要性を検討すべき。	港も一つの要因とは考えられますが、港の建設前から侵食は進んでいたことから、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などによる砂の供給量の減少など、様々な要因が考えられます。幅広い視点から対策を考える必要があると考えています。
1.浸食対策として宮崎港防波堤の撤去を選択肢の一つにあげる事。また、港の機能を維持する工法を工夫		港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	2.宮崎港との因果関係を調整すること	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。

真の原因は？	3.浸食対策について試験的に300億円つぎこむ余裕があるなら根本原因から見直す部門が必要。	提案した対策全体で約300億円であり、試験的のご説明させていただいたものはその一部として含まれるものです。原因については、対応できることは行っていく必要があると考えます。	
	4.宮崎港の突堤などを工法に生かす。	対策法の考える上で参考にさせていただきます。	
	5.波が砂をさらい、川がそれを補ってきた。この自然のシステムを壊したのは一体誰？	人間が生活する上で、安全性、利便性を求めた結果だと思われます。	
	6.浸食の原因と対策は切り離せない、浸食の原因を排除すればはたして砂が戻るのか疑問だ。潮流、海流、異常気象新たな条件も考慮すべき。	侵食の原因と対策はご指摘の通り切り離して考えることはできないと思います。また、新たな条件についても影響の度合い等を考慮する必要があると考えます。	
	7.海岸浸食、沿海漁業衰退、汚染、河川汚染、洪水、地すべり、土石流、山林荒廃、これらはすべて事象である。根本的な対策を講じつつ有効な対策が必要。	ご指摘の通り、様々な問題が今回の海岸を取り囲む問題として存在します。それだけに解決も難しいですが、できることから少しずつでも実行していきたいと思えます。	
	8.侵食の最大の原因は？砂の供給の減少か？	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。	
	9.一ツ葉有料道路の下が波によって崩れている。	すでに場所によってはご指摘のような状況にあることは把握しております。	
	10.温暖化による海面の上昇をも考慮すべき、原因にも加えるべき。	一つのご意見として参考にさせていただきます。	
	11.工事するなら最大の目的は何か？砂浜の回復か？国土保全か？	海岸侵食対策事業は当初は国土保全の観点から始まっており、そのための方法として、護岸や離岸堤などが行われてきましたが、砂浜は国土保全の観点だけでなく、環境や利用の面からも有効であることから、この回復が目的の一つと考えます。	
	12.どうして海岸が今のようになったのか、きっちり調査して納得できる報告をしてほしい。	原因についての概略の説明は懇談会でもさせて頂きましたように複合的な要因による考えられますが、引き続き、原因の解明につながるような調査や分析をできる限り行い、報告させて頂きたいと思えます。	
	原因の究明	1.なぜ、砂浜が無くなっていったのか、その原因を解明することが大事だと思う。	原因についての概略の説明は懇談会でもさせて頂きましたように複合的な要因による考えられますが、引き続き、原因の解明につながるような調査や分析をできる限り行い、報告させて頂きたいと思えます。
		2.とりあえず、原因究明をしっかりとってもらいたい。本当に何が原因なのか把握できているのか。	原因についての概略の説明は懇談会でもさせて頂きましたように複合的な要因による考えられますが、引き続き、原因の解明につながるような調査や分析をできる限り行い、報告させて頂きたいと思えます。
3.宮崎県全体の浜はどういう状況なのか。宮崎市周辺に多いということは、どう考えるか。		土砂の供給条件、地形条件、地質条件等の複合的な要因により、局所的に見れば宮崎市周辺以外にも侵食が起こっている所はあります。しかし、これほど侵食が顕著なところは県内では他では無い状況です。	
侵食の原因	1.海岸侵食の原因を特定する必要がある。	原因についての概略の説明は懇談会でもさせて頂きましたように複合的な要因による考えられますが、引き続き、原因の解明につながるような調査や分析をできる限り行い、報告させて頂きたいと思えます。	
	2.原因は何？	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。	
	3.海の流れと土砂移動がどうなっているのか知りたい。	原因についての概略の説明は懇談会でもさせて頂きましたように複合的な要因による考えられますが、引き続き、原因の解明につながるような調査や分析をできる限り行い、報告させて頂きたいと思えます。	
	4.非常に単純に、昔のような砂浜をとりもどして欲しいと思う。このようになったのは、必ず原因があるはず。その原因を取り除くことが必要(勇気をもって!!既成のものであっても原因であればなくす!!)	原因についての概略の説明は懇談会でもさせて頂きましたように複合的な要因による考えられますが、引き続き、原因の解明につながるような調査や分析をできる限り行い、報告させて頂きたいと思えます。	
	5.現状のまま放置(自然にまかせる)すると、どの程度まで浸食されどようになるのでしょうか。	現段階でのデータを元にしたシミュレーションでは、あと30年ほどで佐土原付近の砂浜が消失すると予測しています。	
	6.原因は複雑系(1つではない)	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。	
	7.土砂の移動方向について 岸沖方向も考慮して？	岸沖方向の土砂移動も考慮しております。	
	8.会場から出された意見で「宮崎港が出来たときの県民のこえ(昔のことなのでワカラナイが・・・)」。本会に参加したい。	もう一度ご意見の主旨をお教えたいただけませんかでしょうか。	
	9.なくなった砂はどこに行ったのだろうか？	正確な量や割合はわかりませんが、沖合いへの流出や港周辺に堆積しているものと考えられます。	
	10.侵食の原因について知りたい	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。	
	11.大淀川・小丸川・一ツ瀬川からの年間の港下土砂量は年間どのくらいなのでしょう？		
	12.ダムがどの位、影響があるのか？	影響の度合いを定量的に示すことは困難ですが、ダムが無ければ流下していたであろう土砂が堆積していることを考えると、ある程度の影響はあると考えます。	

中項目	内 容	回 答
対策(突堤・導流堤)	1. 子どもの時代に比べて海岸全体がものかない姿になっている。	かつての海岸の写真を拝見しますと、おっしゃるような思いをお持ちになることは私たちも同様です。
	2. 何をやっても港がある限り、家屋敷が流れる。	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	3. 不安どんどん砂がなくなる。	そのようなご不安を少しでも軽減できるようにしたいと思います。
	4. 侵食による生態系の変化と自然の脅威。	ご指摘頂いたような状況や思いは私たちも感じているところです。このような影響を低減できるようにできればと考えております。
	5. 津波の恐怖。	
	6. 9月測定した砂浜が20mだった。11月測定したら0m(1回の台風で20m)消失した。	貴重な情報ありがとうございました。
	7. 今の子どもがかわいそう。	かつての海岸の写真を拝見しますと、おっしゃるような思いをお持ちになることは私たちも同様です。
対策(突堤・導流堤)	1. 石崎川口については、近年、砂の増減が見られる。2年前は減、最近増えている。もう少し現状を見守ったらどうか。	砂の様子は、気象条件や波の向きなどによって、数週間単位で見ても変わっていますが、中長期的な傾向としましては石崎川河口付近も減少傾向になっています。なお、観察は引き続き行っていききたいと思います。
	2. 現在の護岸を見ると不安になる。	
対策(突堤・導流堤)	1. 津波に現状では対応できない。	2004年12月のインド洋津波によるインドネシアやタイなどでの被災状況はまだ記憶に新しいかと思いますが、津波はほとんどの方にとって脅威になります。ただ、今回の対策は津波対策まで考えたものではありませんので、大きな地震を感じたらすぐに高台へ避難してください。
	2. 一ツ瀬川河口の砂の流出は非常に急。防災上不安。	防災上の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと考えています。
	3. 早く侵食を防ぐことが先決。	私たちも少しでも早く侵食対策をすることが大切と考えています。
	4. 富田浜の砂を二ツ建海岸へサンドバイパスを緊急に考えてみるべき。	対策法を検討する上で参考にさせていただきたいと思います。
	5. 海岸線後退で災害が心配だ。	少しでも早く侵食対策を行い、防災上の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと考えています。
対策について(その1)	1. 一ツ瀬川河口は、波止めのテトラを入れてもらいたい。1.5mの波でも出入りがむずかしい、川の中の方が浅く船がつかえる。そのため、漁業関係者は宮崎港に比べて漁に出る日数が少ない。	
	2. 一ツ瀬川右岸浸食によって川との境がなくなっている。台風が来たとき、大きな災害になる可能性が高い。	
対策について(その2)	1. 海の砂が少なくなり、川の中の砂が多くなった。潮との関係？離岸堤を二重にして波の力を弱める。	
	2. 緊急対策として、まず矢板をうち、離岸堤を沖に入れる。矢板の内側に今●ってる砂をつむ。至急、一ツ瀬川右岸。	
	3. 離岸堤の沈下問題。地盤の移動か？	
対策について(その3)	1. 侵食対策の進み具合や思わぬ変化に対応して、その都度行政の発表と住民の意見を聞くようにしてください。海岸侵食は予想外に早く進んでいるので、今後どうなっていくかわからないからです。	状況の変化が生じた場合ははじめ、本事業に関連する情報は適宜提示していきたいと考えております。
	2. 行政は海岸侵食が今後どの程度の速さでどこまで進むと思っているのか。工事をして確実に効果が上がる保障はあるのか。結局ダメになったりしないか。遊びはどうでもいい、防災と地盤沈下対策に集中して欲しい。	
	3. 今までの護岸工事を見ていると、全部失敗しているようにしか見えない。海の専門家に本当に話を聞いているのだろうか。いいかげんなことをして、侵食を大きくしないで！	住吉海岸については、昭和57年ころから護岸の整備を行っていますが、当時は道路などの公共施設や保安林、農地などを直接的に防護する目的で、最善の対策を行ったと考えます。これから対策を行う際には、過去の経験や新たな調査結果、並びに住民や海岸利用者の意見を参考に、より適切な工法を行いたいと考えます。
	4. 専門家は誰々をそろえて、どういう意見とか研究を、どう対策しようとしているのか。全部その都度逐一発表してください。それについて住民の意見を言う機会を常時設けてください。	委員会には、これまで県で設置されてきた検討委員会の委員に加え、生物、地質学、地元にお住まいの方や利用者などの方も新たに参画頂く予定としております。委員会での審議内容は後日議事録等を公開する予定です。なお、委員会以外にも懇談会や説明会などの場を設けて皆様のご意見を伺う機会を設けたいと思います。
	5. 工事期間中の住民への対策を忘れないでほしい。	工事をするようになった際には、住民の方にご迷惑を極力おかけしないようにと考えております。
	6. 住民が海へ気楽に遊びに行ける工法でお願いしたい。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	7. 侵食対策と併せて若者たちの遊び場所(集まる場所)がほしい。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	1. 有料道路の移転を考えて。	海岸の背後地にある構造物の移転も対策の一つとして考えられますが、可能性については検討が必要と考えます。
	2. 侵食の阻止を考えず、砂浜や海岸を広くする方途を考えては。	砂浜や海岸を広くすることも一つの目標となりえますが、まずは最低限の目標として侵食の阻止を考えていききたいと思います。

別の方法の検討	3. 宮崎港の機能移転しかない。	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	4. 養砂及び砂の流出防止工事は必要。	ご指摘頂いた点は、養浜の効果を持続的に発揮する上で重要なことですので、配慮していきたいと考えています。
対策について(その1)	5. 今日、石崎海岸を見に行きました。以前より砂がついていた。特に護岸を設置したところは改善されている。	砂のつき具合は、気象条件や波の向きなどによってわずか数週間でも変化しております。なお、ご意見頂きました、石崎浜の海岸ですが、護岸の前で試験養浜を行っている箇所がありますので、もしかするとこの箇所かもしれませんので付記致します。
	6. 景観面と環境面を考えると、養浜だけにしたい。	景観面と環境面という観点からは、養浜だけという事も考えられますが、実際に対策を行うにあたっては養浜の経費などをとのバランスもあります。今回の懇談会ではこの観点からのご説明はしておりませんので、機をあらためましてご説明させて頂きたいと思っております。
	9. 一ツ瀬川の導流堤を考えてみるべき。	導流堤には流水を海に導くことにより流れをよくしたり、船の航行が安全になるなどの効果を持っています。一方、海岸侵食には見方によってはマイナスの面もありますので、今後とも総合的に検討してまいります。
	11. ヘッドラント+養浜のパターンと養浜だけのパターンの比較データがもっと欲しい。(10年、20年単位の砂のつき具合や養浜のみの場合の経済効果など)	対策を行った場合とそうでない場合、異なった対策法の場合の比較も含めて整理した上で、改めてご説明させて頂きたいと思っております。
対策について(その2)	1. 養浜の砂の選定が必要。今の養浜の砂は小石が多く不適当。	養浜に使う砂については、「量」だけでなく、砂粒の大きさなど「質」も重要です。これについては試験養浜などを通じてデータの蓄積をしてきておりますが、引き続き検討を行ってきたいと考えております。
	2. 砂浜に構造物が出来ると魅力はなくなる。	
	3. 消波ブロック・離岸堤(住吉海岸南)は海岸に立つと圧迫感がある。	構造物の大きさや距離などによりそのように感じられたのかと思います。このような点にも配慮していきたいと思っております。
	4. ヘッドランド工法を入れた場合の景観悪化に対して、シーガイアやSNAなど影響を少なからず受ける企業にも意見を聞くべきでは？	ご提案を参考に、関係する幅広い方からご意見を伺いたいと思っております。
	5. 現在、赤江浜の人エリーフは、ほぼ砂に沈んで効果を保てないので、ヘッドラント工法にも期待できない。	
	6. 工法についてはメリット、デメリットの公開を！	委員会やホームページなどを通じて説明してまいります。
	7. 侵食対策として、突堤が有効と思います。早急に2基ぐらい設置し、結果をみる。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	8. ヘッドランドの図は鳥瞰図だけでなく、海岸に立ったときに見える図も必要。	ご指摘の通り、海岸に立ったときにどのように見えるかは景観や圧迫感を想定する上で大切ですので作成したいと思っております。
	9. 数年来、調査研究されているが、国、県、市が一体化して早急に対応すべき。	これまでも様々な調査検討を行ってきておりますが、特に環境や利用面に関する調査検討についてまだ不足している点があると考えております。関係機関が連携し、早めに対策を行うことが出来るようにと考えております。
	10. ダムの堆砂や宮崎港の問題も議論すべき。	具体的対策を行うのは海岸部ですが、ご指摘の通り、様々な要因が関係していることから、幅広く議論することは大切かと思っております。
	11. 侵食の原因として、宮崎港の開発が影響しているのではないかな。	県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、海岸侵食は、港の建設前から進んでいたため、原因は複合的であると考えています。
	12. 侵食対策は養浜が先行しているが、海流の変化を早く調査。	養浜についてだけでなく、海の中で砂がどのような動きをしているのかを把握する上でも、海流がどのように変わっているのかを把握することは大切ですので、そのような調査も行ってきております。なお、季節による変動などもありますので引き続き調査を行っていく予定です。
	13. 海岸への砂の供給が減っているなら、その原因も突き止めて考えていくべき。	ダムへの堆砂や河川改修、川砂利の採取などによる砂の供給量の低下も海岸侵食の原因の一つと考えておりますので、これも含めた対策を検討していきたいと思っております。
ウミガメの産卵に配慮	1. アカウミガメは日本で産卵、その中でも宮崎の海岸は重要。最大限の配慮を。	アカウミガメは宮崎を象徴する一つでもありますので、最大限の配慮をしていきたいと思っております。
	2. ウミガメが産卵に来る住吉海岸は、世界規模で見てもとても重要なものだと思う。	アカウミガメは宮崎を象徴する一つでもありますので、最大限の配慮をしていきたいと思っております。
砂をどこから	1. 養浜のやり方として、オーストラリアゴールドコースト(たしか)では、ベルトコンベアで砂を運んでいるようです。	ご指摘のようなシステムはオーストラリアやアメリカなどに事例があります。これにつきましては、別途情報提供させて頂ければと思います。
	2. 一ツ瀬川の河口の中の砂を取って海岸にすてる。	一ツ瀬川河口の砂を養浜に活用してはどうかというご提案かと思いますが、その可能性も含めて検討していきたいと思っております。
	3. 宮崎港近くの堆積している砂は今後どうするの？	養浜を行うには、どこから砂を供給する必要があります。その一つとして、ご指摘の箇所の砂が使える可能性があるかどうかも含めて検討していきたいと思っております。
	4. 砂浜は残って欲しいです。砂浜に育つ植物を守るため。	私たちもそのように考えております。
	5. 一ツ瀬川で日向大橋の下の方に砂が堆積している全体的に川が浅くなり困っている。この砂を養浜に相当の量として利用が可能と思われる。	養浜を行うには、どこから砂を供給する必要があります。その一つとして、ご指摘の箇所の砂が使える可能性があるかどうかも含めて検討していきたいと思っております。
	6. 一ツ瀬川河口南岸(右岸)の浜砂が川に押し上げられて、船の出入りに事故が多し。	
	7. 施工の方法が海岸の景観をそこなわないかが心配。	施工方法によりどのような景観となるかを適宜お示しして、ご意見を伺うようにしたいと思います。

砂について	港にたまった砂をどこに保管しているのか。又はどこに捨てていたのか。	大淀川河口部の粘土質の土砂は沖合へ持って行っておりますが、それ以外は養浜と陸上部に仮置きしています。
	砂の移動について詳しく調査されているか？	測量による海浜変形や、沿岸流等に関するデータを蓄積し、砂の移動に関する調査しております。
	砂浜を増やすには、離岸堤が必要と思う。	
工法	早急に対策を考えて欲しい。工事の方法としては、T字型が良いと思います。砂浜が短くなってきている。	
	砂浜の復元は砂溜り、浜草の自生、流木の改善を繰り返すことが重要である。	
	サンドバイパス工法の費用対効果の%を知りたい。	サンドバイパス工法と一言でいいますが、例えば、砂の採取地点、採取方法、輸送方法、排出地点の選定等、考えられる組み合わせが多数ありますので、一概に示すことはできません。しかし、ある程度条件をつければ示すことができる可能性はあります。
	サンドバイパス工法について。砂浜が約20mあれば約50%災害が防げることを知っていますか！！	サンドバイパス工法によるかは別として、砂浜が防災上の観点から有効な役割を果たすことは私たちが認識しております。
	直轄工事の実施に当たっては、環境影響評価法を遵守していただきたい。	
	特別な意見も必要だが、ヘッドランド工法が良いと思う。	仮にヘッドランド工法が採用されたとしても、様々な観点から考慮すべき事項は多数ありますので、ご意見を伺いながら進めていきたいと考えています。
	先ず現工法の検証と今後の対策を検討すること。	今回の懇談会では、工法についての説明をしておりませんので、機会を改めて説明させていただきたいと思っております。
	養浜とヘッドランド方式が大変良いのではと考えますので、出来るだけ早めに着工になるようお願いいたします。	仮に私たちが提案した工法が採用されたとしても、様々な観点から考慮すべき事項は多数ありますので、ご意見を伺いながら進めていきたいと考えています。
	工事が着工しても20年かかるとのことだが、10年ぐらいでは完成してほしい。	現在の提案では、工事規模と予算の兼ね合いから完成までに20年となっておりますが、早く対策が効果を発揮するに越したことはありませんので、より工期短縮やコスト縮減につながる方法を引き続き考えていきたいと思っております。
	防波堤を直角でなく、南75度にする。	もう少し具体的なお考えを教えてくださいませんか。
	河川から流入した土砂は、浮砂となり砂嘴、砂州を形成して砂口を創った。コンクリート製品で砂嘴、砂州が出来るのか。自然素材の活用を要する。	使用材料についてもいろいろと比較検討しながら考えていきたいと思っております。コンクリート製品の使用へのこだわりは全くございません。
住吉海岸の復旧は、海岸工法は経済的、効率的な地域活性化に負担をかけないことが重要である。	ご指摘の点を踏まえて考えていきたいと思っております。	
工法	計画中止の可能性のない事業に対する意思を言うのはむずかしい。	海岸侵食対策は必要と考えており、そのための事業ですが、具体の対策についてはみなさまのご意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますのでご了承頂きたいと思っております。
	川から運ぶ砂は堅い浜に置くのではなく、海の中へ置いて欲しい。	どのような砂をどこに置くのが効果的かについては、試験的な施工も含めて検討していきます。
	侵食を防ぐ意で、テトラを置くなら奥のほうに。	消波ブロックを設置するかどうかはわかりませんが、もし設置する場合には配置に配慮したいと思っております。
	川の砂などを養浜しても、海の生物の保全にはならない。	養浜材は、海岸の動植物への影響も踏まえて選定いたします。
	宮崎港の突堤の延長は、この時勢、意味がない。一方で砂をささげり他方で砂を運ぶ金のむだ。	
	ヘッドランドを造っても、砂の流れは止まらない。	完全に砂の流れを止めることはできませんし、そのようにすることも意図しておりません。そのために、現提案でも、毎年、一定量の養浜が必要となります。
	一ツ瀬川の導流堤を延長する計画があるという。やめて欲しい。	
工法－疑問	工法のメリット、デメリットは？	今回の懇談会では工法の詳細について説明をしておりませんでしたので、委員会やホームページなどを通じて説明してまいります。
	地盤沈下について詳しく知りたい。	佐土原方面での地盤沈下の測定を行っておりますが、その原因等はわかっておりません。地盤沈下の現状については、環境白書(宮崎県版)をご参照下さい。
	指揮をとる人が海岸を知らないというのは、どういふことなのか？	勉強不足とご指摘であるかと思っておりますので、引き続き勉強して参ります。
	今後永遠に砂をトラックで運び続けるのか。	仮に提案の方法を行った場合、養浜を毎年行う必要があるため砂を持ってこなければならない場合があります。これをどのように運ぶかや、どの砂を持ってこようか等については、まだ具体的な案がありませんので、今後考えていきたいと思っております。
	なぜ1年ごと、はげしくなるのか？ コンクリート沈むのではないのか？	
	T字突堤は対症療法。抜本的対策も国交省はとっている。宮崎港撤去のことなのか。	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	T字突堤を宮崎に作る計画が中止になる可能性は何%なのか。	現段階は、T字突堤(ヘッドランド)を基本案として検討しておりますが、この建設が前提という段階ではありませんので、よりよい方法があれば検討していきたいと考えております。
	日向には小倉ヶ浜を見渡せる岬がある。宮崎海岸にはそういう場所がない。だから護岸や突堤を作るのか。	ご指摘のような観点での他海岸との比較や工法の検討はしておりません。
港を掘り下げた砂はどこに出すのか。	利用できるものは養浜に活用したいと考えております。ただ、養浜の方法や配置箇所などは今後の更なる検討が必要ですので、それまでは陸上に仮置きするものもあります。なお、これまでも港の浚渫土砂を海上や離岸堤背後部の養浜材として一部活用しております。	

工法	ヘッドランドを入れることによって、亀が怖がって上がってこなくなるのではないかと不安。	ヘッドランドそのものがカメの上陸に影響するは今後も検討していきますが、設置間隔を広く取れるという特徴がありますので影響は比較的少ないと考えております。
	グリ石、金網は外外えった。すべて台風で何百mくずれた。	
	対策についてはテトラポットを入れて、一ツ葉の前のようにしたら砂浜が多く出来るのではないかとと思う。	
	砂を入れるよりも砂が他に逃げないような工夫が大事。	砂が逃げるのを少なくすることを目的としてヘッドランドの設置を提案させて頂きましたが、ご指摘の点については引き続き検討したいと思います。
工法	1.ヘッドランドは本当に有効な対策？。	今回の懇談会では、工法の選定過程についての説明をしておりませんので、機会を改めてさせて頂きたいと思っております。これを受けてご判断いただければと思います。
	2.こわすべき構造はないのか？。	侵食対策として有効であり、かつその構造物の機能に支障をきたさないのであれば、ご指摘のような事も考えられると思っております。
	3.石崎川河口の整備。	もう少し具体的なお考えを教えてくださいませんか。
	4.一ツ瀬川河口内堤の砂を取り大炊田海岸に入れる	対策を考える上で参考にさせていただきます。
	5.サンドバイパスが話題になるが検討したのか。	今回の懇談会では、工法の選定過程についての説明をしておりませんので、機会を改めてさせて頂きたいと思っております。
	6.空港や港の突堤がなくなったら砂が「本当に」戻るとのだろうか？。	空港や港の建設前から侵食が進んでいたことから、これらがなくなったからといって建設以前の状態に戻るといったことはないと推測されます。
	7.ダムを有効利用できないか？(ダムには砂がたまって問題になっている)	砂の供給の増加につながるダムの堆砂対策などについては、河川環境の点からも問題がありますので、行政の関係各機関のなかでどのような問題があるのか等についての整理を始めているところです。
	8.ヘッドランド工法には疑問を感じます。	今回の懇談会では、工法の選定過程についての説明をしておりませんので、機会を改めてさせて頂きたいと思っております。これを受けてご判断いただければと思います。
	9.海岸養生土砂は、一ツ瀬川の砂をもって海浜をつくること。	対策を考える上で参考にさせていただきます。
工法	1.ヘッドランドが出来ると永久構造物らしく、現在美しい水平線が一望できるのが、とぎれとぎれになり景観がこわれる。	景観については重要な観点の一つと思っておりますので、検討していきます。
	2.砂を止める効果が不明の突堤を作るのもお金を海に捨てるようなもの。	構造物だけで完全に侵食を止めることは難しいですので、継続的に養浜を行う必要がありますが、これらを行うことで海岸背後地の資産等を護ることができると考えておりますので、必要な投資と考えます。
	3.青島の砂浜が消えた時、とられた方法(潜堤)で砂浜が復活できたのは？。	今回の懇談会では工法の詳細について説明をしておりませんでしたので、機会を改めて説明をさせて頂きたいと思っております。
	4.鹿島灘にあるT字突堤が砂浜侵食を止めるのに有効だという調査データを見せてほしい。	
	5.九十九里浜の侵食も著しいと聞かすが、では、なぜT字突堤を作らないのか。	千葉県北九十九里の海岸にも侵食対策のためにヘッドランドが設けられています。
	6.すでに突堤が作られ、護岸も人工リーフもある赤江浜の航空写真も公開してほしい	お見せできますが、公開方法は考えさせていただきます。
	7.工法としてサンドバイパス工法など考えているのか？。	今回の懇談会では工法の詳細について説明をしておりませんでしたので、機会を改めて説明をさせて頂きたいと思っております。
	8.突堤のない砂浜の写真だけでなく、突堤のある砂浜の写真も見れば、宮崎の美しい浜がどのように醜くなるかわかる。	イメージをつかむ意味では現提案の完成イメージの絵を示すことも必要ですので作成していきたいと思っております。
工法	1.港の砂を掘って10年間捨てた量を公開すべきだ。	機会を改めて、過去の浚渫データを公開いたします。
	2.赤江浜の人工リーフをどう思いますか。	
	3.ヘッドランド工法の提案があったが、選択の理由すでに実行している県の成果など。	今回の懇談会では、工法の選定過程についての説明をしておりませんので、機会を改めてさせて頂きたいと思っております。
	4.ヘッドランドで砂の動きを止めて海浜の生態系は維持できるのか。	生態系への影響については、事前や段階的に構造物を造っている最中など適宜調査、検討を行っていく必要があると考えます。
	5.工法ありきの議論ではなく「何もなし」「現状の構造物を除去する」という案も検討すべき。	侵食対策として有効であり、かつその構造物の機能に支障をきたさないのであれば、ご指摘のような事も考えられると思っております。
	6.環境面に配慮した対策が必要である。	そのようにしていきたいと考えております。
	7.砂は10m以上深いところに流れ込んでいる。ヘッドランドを造っても砂の流れは止まらない。	ヘッドランドを造っても完全には砂の流れを止めることはできません。そのために、毎年、一定量の養浜が必要となります。
	8.養浜対策 具体的にサンドバイパスでの養浜を実行してみようか。	養浜の方法の一つとして、対策法の検討の中で考えていきたいと思っております。
	9.サンドバイパスしか方法は無い。!!!	一つの方法ではありますが、この方法に限定せず、よりよい対策を考えていきたいと思っております。
鹿島灘のT字突堤	鹿島灘のT字突堤のパンフはいつもらえるのか。	
	九十九里浜、鴨川市の円卓会議の関係者を招いて講演会を開いて欲しい。	「円卓会議」と通称で呼ばれるものではありませんが、市民やNPO等幅広い方が参加する会議が鴨川市にはありますのでこのことを指しているものと思っております。関係者を招いた講演会については検討させて頂きます。
	立派なパンフレットを作っているが肝心のT字突堤のパンフがない。	現時点では、まだそのような段階にはありません。今回のような懇談会や委員会等のご意見を踏まえて、対策法がある程度決定した段階でパンフレット等の作成を考えます。
	鹿島灘にあるT字突堤がもたらした弊害についての報告を聞きたい。	
	九十九里浜にT字突堤がないのは円卓会議があるためなのか。	千葉県の北九十九里の海岸にも侵食対策のためにヘッドランドが設けられています。
鹿島灘のT字突堤の有効性についての研究報告を聞きたい。		

養浜工法	砂をせき止めている港やダムからサンドバイパス(サンドポンプ)を使うのが、自然にも護岸にも良い。	どのような対策であれ、砂をどのように確保するかが課題となっております。ただ、砂といいますが、量だけでなく質も、侵食防止だけでなく生態系への影響の観点からも問題となりますので、これらの点も踏まえて検討が必要と考えています。
費用	以前の護岸工事と今年完成した護岸工事費の差額(波返し)。	
	防災上、工事が必要であれば十分に検討が必要。すぐ壊れるもの維持費がかかるものはするべきではない。	工法を選定する際の参考にさせていただきます
	事業による費用対効果は？	現在の提案している工法を実施した場合の費用に対する効果(背後地の防護による便益)の比は約9です。言い換えますと、何も対策しないと、対策に要する費用の約9倍の額の被害を生じる試算となっております。
	工事費用はどのくらいかかるのか、すべて税金。	現在提案している計画をそのまま行ったとした場合は、20年で約300億円です。
対策について	1.離岸堤はいいと思うが、護岸がいけないと思う。砂浜は存在しなくなる。いずれ護岸は壊れてしまうのではない？	現在の案では護岸を採用しておりませんが、工法選定の参考にさせていただきます。
	2.一ツ瀬川に砂が堆積している所が多々ある。養浜に生かせば河もよくなると思う。養浜に河口も浅くなっている。	河川と海岸の両方の観点から砂の堆積の影響を見る必要がありますが、海岸侵食対策に有効に使える可能性があれば活用を考えていきたいと思えます。
	3.対策工事は生態系の復元に寄与しますか？その根拠、文献を明らかにしてください。	生態系の復元とのことですが、元の状況に関するデータが不足しておりますので、まずは調査から行ってみたいと考えております。
	4.海浜を把握するのが官公施設は遅すぎる。早く対策をうつべきである。	ご指摘を踏まえて早く対策を行うべく皆様からの意見を伺いながら対応して参ります。
	5.侵食対策、昔に戻りたいが現状をみて早く手をうって貰いたい。	ご指摘を踏まえて早く対策を行うべく皆様からの意見を伺いながら対応して参ります。
根本的な取り組みについて	1.砂浜が消えた原因をなぜ研究しないのか？	侵食の原因については、測量等各種調査を続けるとともに引き続き研究していきます。
	2.対策ばかりで原因の解決に進めないのか。	原因の解決も対策の一つと考えておりますので、これも同時に検討する予定です。
	3.海岸近くに住んでいる人が将来が不安だと思う。例えば石崎浜荘の例	私たちがそのような認識をもっております。
	4.ヘッドランドみたいな金のかかる事をしないで、まず原因を考えて追求し、金のかからない方法・対策を考えるべき	よりよい対策については引き続き模索していきます。
	5.自然を大切にと言うのに、なぜ人工物対策ばかり行うのか？	人工物の設置に変わるより良い方法があればそれを採用すべきと考えます。
	6.国・県・電力会社の三者で、ダムについて本気で考える気はないのか。	砂の供給の増加につながるダムの堆砂対策などについては、河川環境の点からも問題がありますので、行政の関係各機関のなかでどのような問題があるのか等についての整理を始めているところです。
	7.国交省(国)が海岸コンクリート化を進めるのはなぜですか？	国土交通省の施策として海岸をコンクリート化するというものはありません。
	8.現代の近代化と進歩の限界。	もう少し具体的にご意見の主旨をお教えいただけませんでしょうか。
	9.空港も①短くする②海上浮上式③県道側に伸ばす	一つのご意見として参考にさせていただきます。

中項目	内 容	回 答
対策(突堤・導流堤)	1. 近郊住民の一番の思いは、台風時や津波時の手当てである。	台風による高波や地震による津波に対して、海岸近くにお住まいの方の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと思います。
	2. 台風による高波や津波。	台風による高波や地震による津波に対して、海岸近くにお住まいの方の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと思います。
松林の対策も	1. 海岸付近の松林の整備をして欲しい。	現在考えている事業の中では松林の整備は考えておりませんが、一つのご意見として参考にさせていただきます。
	2. 松林の中が地盤沈下しているのを行政は知っていますか。(東国原知事はマニフェストでは困っている人のところには飛んでいくと言っていたのに、なぜ国任せにするんだ！)	佐土原方面での地盤沈下の測定を行っておりますが、その原因等はわかっておりません
他の問題	1. 一ツ瀬川河口の砂増養～水害。河口の砂の堆積が水害につながる。一ツ瀬川河口にたまっている、いらぬ河砂を養浜に使えないか。	養浜を行うには、どこから砂を供給する必要があります。その一つとして、ご指摘の箇所の砂が使える可能性があるかどうかも含めて検討していきたいと思います。
自然景観と利活用	1. あんなきれいな砂浜なので、もっと多くの人利用すればなあと思う。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	7. 対象の海岸はまっすぐな砂浜が魅力。これを失ってはならない。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	8. 養浜のみで現在の砂浜のみの海岸を続けたほうが、映画のロケ地としての活用や観光地としての活用など、経済効果が期待できるのでは？	一つのご意見として参考にさせていただきます。
津波対策	侵食対策と同時に津波対策として、海岸に地震速報の警報スピーカーを設置して欲しい。	防災用のスピーカーが宮崎市によって既に設置されています。
	傾斜堤にしてほしい。	現提案では傾斜堤は考えておりませんが、傾斜堤が望ましい理由がありましたら教えて頂けませんでしょうか。
	護岸工事をいくらしても駄目だ。	現提案の中では、護岸工事は考えておりません。

中項目	内 容	回 答
ヘッドランド工法について	1. ヘッドランド工法と養浜が最適であるとの見解ですが、仮に砂が堆積した際の飛砂対策はどうされるのか。	どのような工法であっても、砂浜があれば飛砂の影響はあるかと思しますので、対策の検討が必要と考えます。
	2. ヘッドランドでOKか？	今回の懇談会では、工法の選定過程についての説明をしておりませんので、機会を改めてさせていただきたいと思ひます。これを受けてご判断いただければと思ひます。
工事の長さについて	1. 工事、速くしてもらいたい。	現在も侵食が進んでいますので、これを止めるという観点からは早く対策を行うことが重要と考えています。しかし、同時に、何らかの対策をすると、長い期間にわたって良くも悪くも周辺環境に影響を及ぼしますので、これらの問題の整理も必要です。また、対策を行っている間にも侵食が進む箇所もありますので、対策を行う期間を短くできないか、どのような順番で行うのがよいのか、引き続き検討していきたいと思ひます。
	2. 過去20年で砂が流れた。→工事は20年で大丈夫か？	現在も侵食が進んでいますので、これを止めるという観点からは早く対策を行うことが重要と考えています。しかし、同時に、何らかの対策をすると、長い期間にわたって良くも悪くも周辺環境に影響を及ぼしますので、これらの問題の整理も必要です。また、対策を行っている間にも侵食が進む箇所もありますので、対策を行う期間を短くできないか、どのような順番で行うのがよいのか、引き続き検討していきたいと思ひます。
工事の要求	1.工事は早急に始めてほしい。	特に海岸近隣にお住まいの方が災害に対する不安をお持ちであることは承知しておりますので、少しでも早くその不安を軽減できるようにしたいと考えております。
	2.20年の復旧期間は永すぎず。予算が優先か？国土保全が優先か？短期に対策可能な対策はないか。	現在の提案では、工事規模と予算の兼ね合いから完成までに20年となっております。しかし、早く対策が効果を発揮するに越したことはありませんので、より工期短縮やコスト縮減につながる対策を引き続き考えていきたいと思ひます。
	3.なぜ、必ずコンクリートを用いた工法なの？。	一般的には、コンクリートは、形状が比較的自由に設定できること、圧縮力に強いことなどの特徴から採用される事が多いです。しかし、提示させていただいた案は材質には特に触れておりませんので、同様の機能があるのであれば他の材料の使用は十分考えられます。
	4.浸食については早急に工法を決めて進めてください。	特に海岸近隣にお住まいの方が災害に対する不安をお持ちであることは承知しておりますので、少しでも早くその不安を軽減できるようにしたいと考えております。
お金の話	1.砂浜を掘って港を作ったのは、費用を海に捨てたようなもの。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	2.300億円は県民一人あたり2000万円になるが、子や孫が負担するのか？。	明確にお答えすることはできませんが、一般的に考えると、国税ですので、現役世代も含めた国民(県外の方を含む)にご負担いただくということになります。なお、300億円を、仮に宮崎県の方のみでご負担とした場合は、県人口を100万人とすると、お一人あたり3万円になります。
対策	1. ヘッドランドの耐久年数はどのくらいあるのでしょうか。	材質、材料等の条件が現時点では未定ですのでわかりません。ただ、一定の期間ヘッドランドとしての効果を発揮できるように維持管理を適切に行う必要があると考えます。
	2. 30年間、海岸を巡回してみて、ヘッドランド工法が最良の工法であると思う。	もしよろしければ、そのようなお考えに至った経緯をお教え頂けないでしょうか。
	3. ためしにヘッドランドを2〜3ヶ所つくってみる。	ご意見のように、数基建設したうえで、様子をみながら進めていくことも含めて検討したいと考えております。
	4. 侵食対策については行政が強力なイニシアチブを発揮して欲しい。(例:養浜+ヘッドランド式)	イニシアチブは行政の方で取らせて頂くにしても、対策を考えるにあたっては皆様のお考えも伺い、よりよいものとなるようにしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。
対策(突堤・導流堤)	1. 突堤に賛成です。サーフィン&環境保護の観点から	サーフィンや環境保護の観点で対策を考える際の参考にさせて頂きたいと思ひます。
	2. これから3本の突堤をつくと聞いているが本当にできるのか？	どの部分の事をおっしゃっているのか教えて頂けませんでしょうか。
	3. 侵食対策について。養浜+突堤を試験的に早く実現して欲しい	ご意見のように、数基建設したうえで、様子をみながら進めていくことも含めて検討したいと考えております。
	4. 石崎川の河口に防波堤を作る構想はないのか？(川の流れが変化している)	今のところ、石崎浜河口付近に防波堤を設置する構想はございません。
	5. 一ツ瀬川の南側導流堤と右岸の堤防との間の砂が多量に積まれては、沖に流失し無駄金になっている。一考を要する。	
離岸堤、突堤について	千葉県の一の宮ではヘッドランドをして、中央部分が侵食されて岸もコンクリートがはいつたのに何故？	突堤状の構造物だけではご指摘のようになることも考えられますが、養浜を適切に行うことで岸に構造物が入ることは避けられると考えます。
	離岸堤には反対(波がこない)。	工法選定の参考にさせて頂きます。
	海岸にコンクリートをいれることは、今までに侵食を止めた試しがない。	構造物だけで完全に侵食を止めることは難しいですので、継続的に養浜を行う必要があると考えます。
	赤江浜に突堤を作ったが、どんどん侵食が進み最後にはコンクリートだらけになった。砂浜はどこへ？	以前に比べると少ないかもしれませんが、突堤間にも砂浜が存在しておりますので、ご指摘の状況ではないと思ひます。
	ヘッドランド工法の確実なデータがないのに、なぜヘッドランドなのか？	現在あるデータや解析手法を用いた比較検討の範囲では養浜とヘッドランドの併用が適切と考えています。ただし、まだ十分でないデータや検討項目もありますので、さらに検討を行いたいと思ひます。
突堤は美しい日本を目指す日本の美しい海岸にとって不必要。	よりよい対策法があれば、模索していきたいと思ひます。	

対策について	1.ヘッドランドが最適な方法なのか？これはいかにも自然的ではない。人工的な(コンクリート等)構造物はやめてほしい。	現段階では懇談会でご説明致しました方法が良いと考えておりますが、今後よりよい対策がないかは模索していきたいと考えます。
	2.ヘッドランド等大きなコンクリート構造物では景観が壊れる。そういうものが多い海岸はもはや海ではない。	構造物をいれることで景観が変わることは十分考えられますが、できる限りそのような影響が低減できるような対策を考えていきたいと思えます。
	3.港やダムが原因とすることは常識となっている。この原因を取り除くよう検討すべきである。	侵食対策として有効であり、かつその構造物の機能に支障をきたさないのであれば、ご指摘のような事も考えられると思えます。
	4.面的(ヘッドランド)な工法を考えて良いことですね。	ありがとうございます。
	5.接続可能な宮崎の海岸対策が必要では？	ご指摘の通りかと思えます。
	6.今ある施設を壊すことなく、海岸を維持することはできないのか？	
	侵食対策にはいろいろな工法があると思いますが、侵食の原因がまだ特定されていないのであれば、工法の中のヘッドランド工法に特定しなくてよいのではないのでしょうか。	原因についての概略の説明は懇談会でもさせて頂きましたように複合的な要因によると思えます。工法については、まだ十分でないデータや検討項目もありますので、さらに検討を行いたいと思えます。
	侵食対策工法ヘッドランド工法が漁業者に与える影響はどのようになるのでしょうか。	魚を含む生態系への影響や操業への影響などに関する調査はまだ十分ではありませんので、今年度から実施する予定です。
	7.放っておいて一番最初に困るのは誰か？そのための対策は？	特定することは困難ですが、海岸背後地の住民、有料道路の利用者、海岸利用者、産卵場を失ったアカウミガメなどがあげられるのではないかと考えます。なお、順番というよりもすべての方々に大なり小なりの影響を及ぼすと考えています
	8.防災と自然保護、どちらを優先させるべきか？	どちらも大切な観点と考えます。
	9.ヘッドランドの何がいけないの？	構造物をいれることで、漁業やマリンスポーツ、景観への影響などが懸念されると考えられます。
	10.対策後のメンテナンスもお金がかかりますよね。	
11.地域に合った工法を！	住吉海岸の特性を踏まえて対策を考える必要があると考えます。	
12.災害復旧のあり方の改善。	今回の事業は災害復旧ではありませんので直接関係しませんが、一つのご意見として参考にさせていただきます。	

中項目	内 容	回 答
昔の海岸を今の子ども達に	1. 幼少時代の海岸での遊びを今の子供達にも経験させて欲しい。	目標の設定の際の一つの参考とさせていただければと思います。
昔の思い出	1. 河口でシジミ取り(~S45まで)	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	2. 夏は浜辺でグチつり、石崎から住吉までカンテラの行列。冬は金たけ取り。夢があった。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	3. 石崎川で1mのスズキがとれた。(河口から1km)	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	4. 昔は遠足に行っていた。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	5. 中学、高校、大学時代はキャンプができていた。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	6. 地引き網。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
昔の思い出	ブチの投げ釣り	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	昔は学校の後に海へ行っていた。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	昔は朝から海ガメの産卵を見ていた。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	遠足にいっていた。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	子供がいなくなった。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	ソフトボール。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	地引網。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	昔の一ツ葉海岸を覚えている人は、今までの県の対策に幻滅している。	
県外にも宮崎の海岸を心配している人は多数いる。宮崎だけの問題ではない。		
思い出	小学校の別れ遠足は浜であったが、今は場所がなくなっている。	
	遠足をできる海岸にして欲しい。	
	昔の運動会があったり、貝採りをしていたという昔の海岸の姿をもう一度見てみたい。	
昔	昔は台風時、現在のゴルフ場辺りで流木等が押し上げられていた。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	以前にも侵食された形跡がある。(火山灰や空きカンが砂浜の下の方から出てくるので)	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	スワプトの貝のカラを壁の土に入れていた(装飾品用)。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	地方名でスワプトと云う貝が全くなくなる。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
昔	1.宮崎の海岸が着々とコンクリートで固められていくのが淋しいです、気持ち悪い。	
	2.子供の頃は砂浜で運動会(地区)やソフトボールをしていた。そんな海岸に戻ってほしいと思う。	
	3.昔は砂浜が広がった。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	4.地引網をやっていた(住吉海岸)。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
昔のおもひで	1.戦争中の小学校の遠足は、一ツ葉浜、こどもの国の砂浜で遊んだこと。宮崎港着工から砂浜が無くなってきたような。	
	2.小学校のお別れ遠足は、赤江の浜でした(孫の代まで続けてほしいな)。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	4.すみません。30年前カメのたまごを取っていました。	これからは取らないように気を付けて下さい。
	6.昔は、アカウミガメが多く産卵に来たと言う。今は産卵場所を見つけれずに産まずに帰るカメもいる。	そのように伺っております。カメが産卵するには、日常的に波が上がってこないような広い砂浜が必要です。

中項目	内 容	回 答
潮位が高くなっていないか	1. 砂が少ない。貝がいなくなった。侵食だけなのか、潮位がどれくらい上がったのか。	砂の変化が生物の生息環境にも影響している可能性もありますが現時点ではよくわかりません。また、潮位の変動については確認させていただきます。
全国の海岸侵食について	1. 全国的な海岸侵食はどのような状況なのか。	原因は様々ですが、海岸の侵食が進んでいるところは全国各地にあります。他の地域の様子については、整理した上で、情報提供をしていきたいと思えます。
台風、不安	台風など、災害が一番不安で心配している。	少しでも早く侵食対策を行い、防災上の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと考えています。
	台風時は大きな波のため、松林はすぐ消える。	松林に波が直接かぶったり、あるいは松林のある部分が侵食されることによる懸念かと思えますが、このような影響の低減も含めて対策を検討していきたいと考えております。
	松林がなくなると、台風被害が心配。	松林がなくなることにより、背後地に直接波が押し寄せたり、潮害の影響が生じたりすることを懸念されていると思えます。背後地を守るという観点では松林も大切な役割をもちますので、松林を担当する部署と調整しながら不安を軽減できるようにと考えております。
現状	住吉海岸の侵食は、年々増加していると考えられます。	
	防堤に穴が開いてあぶない。	危険とお感じになっている状況の確認が必要ですので、具体的な場所がありましたら教えて頂けませんでしょうか。
現状	砂は10mまたはそれ以上深い所に流れている。	よろしければもう少し具体的に教えて頂けませんでしょうか。
	台風のたびに砂が来て、1年に1mの砂浜が育っていた。	情報ありがとうございました。
	砂の中に深さ10m又はそれ以上の穴を掘った。(宮崎港という穴)	
	現在の突堤は効果あり？	突堤といいますが様々な目的のものがありますが、もし具体の突堤をイメージされているのであれば、どの突堤のことか教えて頂けませんでしょうか。
	松林、松くい虫。	
	港が出来る以前の住吉海岸は砂浜が4～500mあって、1年に1m出ると昔(S10年)は言っていた。	
現状	地盤沈下は一ツ瀬(佐土原で20cm)、石崎川(住吉で10cm)	佐土原方面での地盤沈下の測定を行っております。地盤沈下の現状については、環境白書(宮崎県版)をご参照下さい。
	砂が10～12mに流れるので、地盤沈下が進んでいる。	
海岸について思っていること	1.自然の浜を残したい思いがいっぱいです。子供たちや家族のレクリエーションの場として。	できる限りそのようにできるような対策を考えていきたいと思えます。
	2.砂浜を40年前に戻してほしい。	目標の設定の際の一つの参考とさせていただきます。
	3.国や県も砂浜がないのにアカウミガメでは●にならない。まもなく民家が流れる。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	4.地盤沈下で佐土原や住吉の住民はやがて住めなくなる。	佐土原町近辺の、この20年程度の地盤沈下の状況を県が調査しています。
海岸について思うこと	1.スポーツランド宮崎を考えるとサーファーへの配慮も必要かな。	そのように認識しております。
	2.漁業権もありますよね。	住吉海岸沿岸ではシラス漁などの漁業が盛んに行われております。
	3.流域一貫の対策(広い視点)が必要かな？	そのように認識しております。
	4.宮崎で起きていることは、日本中・世界中で起きているのか？	程度の差はありますが、海岸の侵食が進んでいるところは全国及び世界各地にあります。他の地域の様子については、整理した上で、情報提供をしていきたいと思えます。
	5.なぜ砂浜は必要なのですか。	もともと存在していたものであるとともに、防護、環境、利用のいずれの観点からも優れた役割をもっていますので必要と考えます。
	6.海岸に線引はあるのか？市街化区域等	特に保全すべき海岸としての海岸保全区域を特別に指定しています。また、管理する主体者の違いによる管理区域の線が存在します。
	7.今後何十年もかけて、多額な経費をかけて、本当に砂浜がとりもどせるのか？各国の取り組みを検証したか？	まだ十分な事例がありませんが、これまでに行われてきた対策とその効果を踏まえた上で決定していきたいと考えております。
	8.海岸を利用の面から考えると、どのようなことがあるのでしょうか。(当該海岸は離岸流があり、海浜としての利用に制限があると思えます。)	一般的に考えられる海岸の利用については、海水浴や、昔の思い出としてあげられているような遠足、釣りなどや、比較的新しいサーフィンなどが考えられます。ただし、当該海岸は元々遊泳ができなかったことなど、利用に制限のある事項もあります。
	9.海岸侵食は全国各地で発生しており、他地域の対策工法が当該海岸に有効かどうかは慎重に判断する必要があるのではないかと。	ご指摘の通り、住吉海岸の特性を考慮したうえで有効と考えられる対策を行う必要があると考えます。
一ツ瀬有料道路について	1. 有料道路の利用者(北線)、現在643/日弱程あります。生活観光道路として定着し、必要不可欠であると思っています。	一ツ瀬有料道路は、この地域にとって重要な道路の一つであると思えますので、この道路の機能を安定的に確保することは重要と考えています。
	2. 有料道路の管理者として、過去2度の費用負担により復旧した経緯があります。出来るだけ早い対策を要望します。	一ツ瀬有料道路は、この地域にとって重要な道路の一つであると思えますので、この道路の機能を安定的に確保することは重要と考えています。
	元の砂浜がほしい	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	昔の砂浜にしてください	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	昔のように砂浜が広くあった方がよい。今は浜を見ると不安である。	一つのご意見として参考にさせていただきます。

砂浜について	何もない砂浜が一番いいので、それが工事でなくなるんじゃないかというのが不安。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	これからの地元の小学生が、お別れ遠足を地元の砂浜でできるよ、昔の砂浜に戻す最大限の努力をしてほしい。	確保できる砂浜の幅には限界があるとは思いますが、できる限りの努力をしていきます。
不安に思っていること	宮崎の海がこれからどうなるのか不安。	不安の中には様々あると思いますが、少しでも軽減できるように皆さんとともに考えていきたいと思えます。
	すでに工事(養浜+ヘッドランド)が確定しているのではないかと不安。	それはありません。
	景観が失われ、飛行機から見る宮崎の海が汚くなるのが不安。	ヘッドランドに限らず、何らかのものを造れば景観は変わりますが、それが受け入れられるか否かは検討すべき事項の一つと考えております。
	赤江浜のときのように、いつの間にか工事が進んでいないかと不安。	赤江浜は、災害復旧事業であったため、限られた時間と予算の範囲で事業を行う必要がありますが、今回対象とする領域は、現在、そのような制約があるわけではありませんので、ご意見を踏まえて進めて参ります。
	防災対策が第一。	防災上の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと考えています。
最近の自然の怖さ	3.住吉海岸(石崎浜附近)で護岸(係長の説明にあった立派なもの)が崩れているのを見ました。	外力(波力)が当時の想定以上に大きかったことや、予想以上の海底面の地形の変化等によるものと考えられます。
	当時、最良の工法だったのになぜ崩れたのか？	外力(波力)が当時の想定以上に大きかったことや、予想以上の海底面の地形の変化等によるものと考えられます。
	18年9月 台風14号の災害で記念病院等が被害を受けた驚き。	自然の力の大きさを感じます。
今の工事に対して感じる事、問題点	1. 現状は工事に思いやり温か味がない、ただ工事をしているのみ。	ご意見を頂きましたことを真摯に受け止めていきたいと思えます。
	2. 養浜の弊害は考えているか。	養浜による効果、影響については様々ありますが、懸念される事項としては、砂の流出による侵食抑制効果の持続性(砂の安定性)や、海岸周辺への動植物の生態系への影響などがあげられます。どのような影響が現れるのか、また、どのような砂を用いるとこれらへの影響を低減できるかについては、引き続き調査を行っております。
留意すべき事	1. 突堤で死者が出たりケガ人が出た話を聞く、突堤が出来ると危険性は増す。	
	2. 養浜もどこの砂かが大事。大淀川の砂と一ツ瀬川の砂とでも違う。	養浜に使う砂については、「量」だけでなく、砂粒の大きさなど「質」も重要です。これについては試験養浜などを通じてデータの蓄積をしておりますが、引き続き検討を行っていきたくと考えております。
広域問題	大淀川の土砂流出によって、赤江浜の供給源がなくなった。技術委員会の結論は幼稚で、委員選出を慎重に！	赤江浜につきましては、本懇談会の主旨とは直接関係ありませんのでお答えしかねますが、幅広い見地から討議ができる委員会としたいと考えております。
	一ツ瀬人工ビーチのトイレをなぜ1億円もかけて作ったのか？！	本懇談会の主旨とは関係ありませんのでこの場ではお答えしかねます。
利用について	1.宮崎の海岸はサーフィンをする人たちにとって大切。サーフィンが出来なくなるような整備はしてはいけないと思う。	できる限りそのようなことがないような対策を考えていきたいと思えます。
	2.離岸堤になって、サーフィンができなくなる。	
	3.50年前の赤江の浜。	目標の設定の際の一つの参考とさせていただきます。
	4.昭和40年代は海岸から海に向かって直接釣りをする人が多くいた。それが復活する可能性は？	
	5.今、宮崎ではマリンスポーツ等の盛り上げの話が上がっているが、その土俵である海を考えながら話を進めているのか。	もう少し具体的にご意見の主旨をお教えいただけませんかでしょうか。
	6.子供たちも安心して遊べるのか？	ご指摘の点も含めて検討していきたいと思えます。
	7.自然には自然でいられる権利がある！！景観の問題等	もう少し具体的にご意見の主旨をお教えいただけませんかでしょうか。
	8.やはりこのまま放っておくと砂浜が少なくなって、波打ち際で遊ぶことができなくなるのではないかと(不安)	現状のままであれば、場所によりいつになるかは異なりますが、波打ち際で遊ぶことが困難になると推察されます。

中項目	内 容	回 答
ダム・港・空港のついて	1.何をしてもダメデス！！一度侵食するとダム・港全てリセットしなければ、全て徒労。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	2.海岸線侵食の原因撤廃について、原因を港や空港と仮定した時、それを撤廃すると現在の経済産業面で影響が大。	港・空港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にもダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。また、経済産業面から考えますと、港や空港は、宮崎の物流拠点の一つとして各種産業の発展などに貢献していると考えていますので、仮に撤廃した場合は、その影響は大きいと考えます。
	3.侵食の要因が宮崎港建設にあるとするなら、何故そうなるのか、学術的・事例的に徹底して調査研究すべきと思う。	侵食の要因は複合的なものと考えますが、引き続き調査検討を実施して参ります。
	4.浸食の原因と言われる空港・港の撤廃が無理とするなら、建設した時点で砂の投入と300億円の投入のリスクを背負ったことになる。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	5.ダム・港のせいにするのは、どうかな？	ダムでの堆砂や河川改修、少し前まで行われていた川砂利採取等により砂の供給量が減っていることや、宮崎港の整備など様々な要因によるものと考えています。
	6.港、必要施設これができるようになったと思う。	宮崎の物流拠点の一つとして各種産業の発展などに貢献していると考えています
	7.現行の港を再検討すべきである。突堤の役割検証すべきである。	港湾施設で見直せる点があるのでしたら、それも含めて検討していきたいと思います。
	8.伊比井の海岸も宮崎港が原因？	伊比井は場所や地形的なところからも宮崎港の影響があるとは考えていません。
	9.宮崎港が関与しているならば、そこから流砂対策は検討されないものでしょうか。原因は根本から。	侵食対策として有効であり、かつその構造物の機能に支障をきたさないのであれば、ご指摘のような事も考えられると思います。
	10.港のせいといきり立っても会の意義がなくなる。	様々なご意見をお持ちの方がいらっしゃるかと思いますが、それらを皆さんとともに共有しながら、よりよい海岸侵食対策を考えていきたいと思っています。
	11.対策は砂の減少原因を解消しないかぎり、対処療法にすぎず、対策にはなりえないと思います。	砂の減少要因の解消も含めて、総合的に考えていきたいと思っています。
対策	1.アメリカでは砂浜侵食を止めるために、川の上流のダムの撤去を始めたところがある。	対策を考える上での参考になるかもしれませんが、具体的な場所やダム名をご存じであれば教えて頂けませんでしょうか。
宮崎港	1.宮崎港の今後のあり方、埋め立てたほうが良いと思う。	埋め立てることにより期待される効果について、もう少し具体的にご意見の主旨を教えてくださいませんか。
	2.宮崎港を30年前に戻してください。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	3.赤江の入江をうまく利用した宮崎港の建設。	現在の宮崎港の位置を、大淀川の対岸側(津屋原沼)に変えるというご提案でしょうか。もう少し具体的に教えて頂けませんでしょうか。
	4.海岸工学の研究者は、砂浜の侵食は宮崎港および、その突堤が原因だと口をそろえる。	多くの方がそうにおっしゃっていることは認識しておりますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、海岸侵食は、港の建設前から進んでいたため、原因は港だけではなく、複合的であると考えています。
宮崎港	宮崎港を撤去したら砂浜は戻る。その時にT字突堤はじゃまになる。	港も一つの要因とは考えられませんが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	宮崎港がある限り、どんなことをしても駄目だ！	港も一つの要因とは考えられませんが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	毒食わば皿まで。港が「どく」を出し、ついでに建設がしりぬぐいで毒を食うた。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	宮崎港との関連？	港も一つの要因とは考えられませんが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。
	宮崎港について知りたい(原因なのでは?)。	港も一つの要因とは考えられませんが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。
	港にこだわれば、住民は「座して死をまて」になる。	港も一つの要因とは考えられませんが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	侵食対策として、宮崎港の一部撤廃(防波堤の100m単位での撤廃による調査)は検討したくないか。	侵食対策として有効であり、かつその構造物の機能に支障をきたさないのであれば、ご指摘のような事も考えられると思います。
	侵食対策の根本は宮崎港ではないのか。	港も一つの要因とは考えられませんが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。

侵食対策について	侵食の始まりは港が出来てからである。港の構造について考えるべきである。	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂、少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。また、港の構造についての検討は、侵食対策として有効であり、かつその構造物の機能に支障をきたさないのであれば、ご指摘のような事も考えられると思います。
	全国でまだどこも成功していない構造物を入れない侵食対策にチャレンジしてほしい。綾で画期的なプロジェクトが上がったように、住吉海岸でもできないか。	よりよい対策法があれば、模索していきたいと思います。
宮崎港	1.深さ10mそれ以上の深さの穴(港)に流れ込む砂を、工学の浅知恵で止められるか。	完全に砂の流れを止めることはできませんし、そのようにすることも意図しておりません。
	2.宮崎港の工事は具体的にどれくらい改変したのか、現在も維持するためにどれくらい手を加えているのか。	機会を改めてご説明させていただきます。
	3.宮崎港を廃港として、住吉海岸を昔の姿に戻すことをしたい。	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、港を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	4.昭和25年(高校生時代)から宮崎海岸の海浜変形を見てきました。今、進んで侵食を止めるのは一ツ瀬川の導流堤、宮崎港の防波堤撤去しか解決策はない。	導流堤や港も一つの要因とは考えられますが、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂、少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。従って、これらの施設を撤去すれば問題が解決される、ということでは無いと考えています。
	5.港の砂はどこに持っていったのか。	
宮崎港	1.港と砂浜の関係は？	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。
	2.原因は港ではないか？	港も一つの要因とは考えられますが、県による海岸侵食対策事業が宮崎港の建設と同時期から行われていることからいえるように、港の建設前から侵食は進んでいたため、これ以外にも河川改修やダムでの堆砂や少し前まで行われていた川砂利の採取などにより砂の供給量が減っていることなど、様々な要因が考えられます。
	3.宮崎港の必要性について知りたい	宮崎の物流拠点の一つとして各種産業の発展などに貢献しています。
	4.港を取り壊す場合いくらかかるのか？	試算はしておりませんが、多くの費用を要すると考えます。
	5.お金をかけてまで港を取り壊すべきなのか？	宮崎の物流拠点の一つとして各種産業の発展などに貢献していると考えていますので、現実的には取り壊すのは難しいのではないかと思います。
	6.侵食の原因のひとつが港にあるにしても、港ができて地域にとってもいい点があるのではないか。	宮崎の物流拠点の一つとして各種産業の発展などに貢献しています。

中項目	内 容	回 答
今後の姿(望むこと)	1. 侵食工事のみでなくて、郷土づくり、人づくりも視野に入れてほしい。	ご意見を頂きました点は、工事の有無に関わらず、とても大切なことと思います。しかし、郷土づくり、人づくりを持続的に行うには地域の皆様が主体となることが重要と思いますので行政機関はそのような活動の手助けができればと思います。
	2. 完了して多くの人々が美的にも景観的にも100年先にも喜ばれるものにしてほしい。	私たちもそのように出来ればと考えています。
望むこと	1. 人と人とのきずな作りの場になることを望む。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	2. 今は雰囲気がい暗い、完成時には明るく楽しい雰囲気。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	3. 海岸工事完成時には人が楽しめる公園化が望まれる。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
願望	防災の面から侵食により津波、高波の恐れがある。早急に対応してください。	少しでも早く侵食対策を行い、防災上の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと考えています。
	自分たちが子供の頃に遊んだ浜が欲しい。1日も早い工事がほしい。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	地域に住む住民としては、サーフィンやウミガメも必要だが、危険解消することが一番である。	少しでも早く侵食対策を行い、防災上の不安を少しでも早く軽減できるようにしたいと考えています。ただ、サーフィンやウミガメも特に宮崎県にとって貴重なものですので、これらとの調和も重要と考えます。
行政はお勉強しよう	今以上に侵食は進むのだろうか？	現状のままで何ら対策をしなければ侵食は進むと考えます。
	行政は自然摂理をしっかりと学べ。砂の中に穴をほれば、穴に砂が流れる。	砂の中に穴を掘り、周辺に砂の流れがあれば、そのようなことになります。
	海流をしっかりと学べ。	調査は行っておりますが、引き続き勉強致します。
未来	住吉海岸にT字突堤を作ったあとは、富田浜、堀の内海岸が続くのか。	現時点でそのような計画はありません。
	砂浜が欲しい。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	子供が海で遊べる様にして欲しい。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
砂浜について	元の砂浜がほしい	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	昔の砂浜にしてください	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	昔のように砂浜が広くあった方が良く。今は浜を見ると不安である。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	何も無い砂浜が一番いいので、それが工事でなくなるんじゃないかというのが不安。	対策を行わないと、砂浜が無くなる可能性もありますので、早く対策を行うことが大切だと思います。
	これからの地元の小学生が、お別れ遠足を地元の砂浜でできるよう、昔の砂浜に戻す最大限の努力をしてほしい。	確保できる砂浜の幅には限界があるとは思いますが、できる限りの努力をしていきます。

中項目	内 容	回 答
環境	1. 養浜工の方法によってはアカウミガメの上陸に悪影響を及ぼしている。	石崎浜で実施している試験養浜の事かと思いますが、ご指摘の通り、養浜の仕方(施工の仕方)によりアカウミガメの産卵状況に差が生じるという結果が出ております。本格的な対策を行う際にはこの結果も踏まえて行いたいと思います。
	2. 人工的な構造物を作ることで亀などの生態に変化が起きるのでは。	何らかの影響が生じる可能性は否定できませんので、様々な角度から調査検討を行っていききたいと思います。
自然景観・自然との共生	2. 富田浜は侵食が少なく、今年はコアシサシが飛来している。この様子をどう思われますか？	富田浜がコアシサシの生息環境として適しているということかと思えます。海岸環境を考える上での参考としたと思います。
	3. どこまでも砂浜が続く住吉海岸はとても美しいと思う。	私たちもそのように思います。
	4. 自然景観が著しい変化して人間社会まで影響	
観光・工事影響	1. 観光宮崎には多大な影響があるので、緊急な対応が必要である。	私たちも早急な対応が必要であると思っております。様々な影響を十分に検討したうえで実施したいと考えます。
	2. 大淀川の砂を石崎浜北側に積んであるが、養浜と聞いているが、どのように調査(?)するのか。	色を付けた砂を用いた砂の移動状況を調査や、アカウミガメの産卵状況等の生物関係の調査などです。
	3. 侵食対策について。利用と環境と配慮の比率を明確化して対策を考えるべきである。	侵食対策は、国土保全と利用、環境の観点を総合的に検討していく必要があると思えます。ただ、このようなものは必ずしも数値で評価できるものではありませんので、その比率をはっきり示すことは困難です。
	4. 離岸堤は反対です。サーフィンができなくなります。	
	5. 砂がなくなるとサーフポイントが消滅してしまいます。	
環境・カメ・植物	1. 侵食対策について。護岸工事については費用対効果も必要であるが、自然にやさしい工法を望む。	今回事業化を行う範囲では、現在の案では、護岸工事は想定しておりませんが、護岸に限らず工事を行う際は、ご意見頂きました点に配慮していききたいと思います。
	2. 写真を見て、このままでは、動植物だけの被害にとどまらず、人の生活を脅かす現象だと思う。	私たちもこのままではご指摘のような懸念があると考えております。
	3. カメの人工孵化場所を守るべきと思う。	カメの状況を見守っている方のご意見を伺いながら考えていききたいと思います。
	4. 海鳥が産卵できる場所を早く確保して欲しい。	
	5. 養浜に賛成です。サーフィン&環境保護の視点から。	
	6. アカウミガメの現状を詳しく知りたい。	アカウミガメをはじめ、海岸に関係する生物の生態系については、ホームページなどを通じて順次情報提供をさせて頂くとともに、勉強会のような機会を設けてお知らせできればと思います。
	7. 亀の産卵に岸壁が障害になっている。特にテトラポットがある所は、その間にはまって海に帰れず、死んでいるのも見ることがある。	砂浜を増やすことも大事ですが、浜に来るために障害があってはウミガメが来られませんので、ご意見を参考にして対策を考えていききたいと思います。
	8. 浜ギリが出来ると砂浜の確保して欲しい。	
	9. アカウミガメの上陸が防波堤ができてどういう風に変わってきたのか。大切にしたいアカウミガメですが…。	経年的なカメの上陸数や上陸地点の変化は、例えば防波堤の建設年次との関係を比べるとわかるかもしれませんが、そもそも海岸が侵食され、産卵場所が減少していますので、一概に関連づけられないと推測されます。
自然	自然にもう一度かえせ。自然は美しい。人工はきれい。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	自然環境への配慮を。	できる限りの配慮をしていききたいと思います。
環境への影響	コンクリート工法そのものが、海岸法の利用と環境を守っていないのでは？	コンクリートを使用すること自体が、利用と環境の観点から適切でないとは必ずしも考えておりません。なお、現時点では使用材料をコンクリートに限定してはおりません。
	イシモチが釣れなくなった(生態系の変化)。	情報ありがとうございました。参考にさせていただきます。
	環境に影響の少ない工法の方が良い。	工法選定の際の参考にさせていただきます。
環境	1.昭和30年代、以前の海岸の状態、その生態系と景観の復元目指さなければと思います。	特に生態系と景観面での一つの目標設定の参考にさせていただきます。
	2.企業中心で考えてる間は、自然は戻ってこない。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	3.アカウミガメ・コアシサシの繁殖地が無くなっている。種の存続に影響が大きい。	現在の傾向が続くと、さらに影響が大きくなると思っておりますので、早くその影響を軽減できるように検討していききたいと思います。
	4.自然浜と人工浜とでは、人工浜にはアカウミガメが産卵しないという貴重なデータを見せてもらった。アカウミガメを守りたいですね。弱者にやさしく共生できる宮崎	アカウミガメは宮崎の海岸では特に貴重な存在の一つですので、産卵場をできるだけ守れるような対策を考えていききたいと思います。
	1.自然の破壊を目の当たりにして見てきた人の意見は大切だ。	ご指摘のとおりです。どう変化していったのかの情報をいただくと今後の参考になります。
	2.海岸の砂が減っていくこと。	海岸の砂が減っていく事への不安を指していると思いますが、それが低減できるような対策ができればと考えております。
	3.アカウミガメは環境指標の一つ。良い自然(今、残存している)を、残す技術と保全技術と修復技術の開発が急務。	ご指摘の点は大切なことと思えます。これらを調和した対策ができればよいと思っております。

環境についての思い	4.海岸浸食は日本国中あり、日本の問題(国土交通省)もっと頑張って多面的なやり方をしてください。	よりよい対策法があれば、模索していきたいと思います。
	5.砂浜がなくなると野鳥(コアジサシ等)が住み着かない。	対策を考える上で配慮すべき事項の一つとして考えていきたいと思います。
	6.こんなに賛同意見も(民間)結果得られずに、とにかくコンクリート固めになっていく日本の行く方が心配(何のため?)。	できる限りそのようなことがないような対策案を考えていきたいと思います。
	7.環境保全をお金で買う時代、今ある自然(良い?悪くない)は金に換算できない。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	8.海岸環境は最悪なところまで来ており、全ての原因は人がつり出したのだと確信している。それは、我々の星(地球)を滅ぼし多くの現代社会における価値を変えるだろう。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
環境について	1.波は砂を育てると考えるが、何故、浸すと定めるのか?	
	2.海流はどうなるのか?	もう少し具体的にご意見の主旨を教えてくださいませんか。
	3.沿岸流の問題	もう少し具体的にご意見の主旨を教えてくださいませんか。
	4.温暖化によるモンスーンの変化	温暖化とモンスーン(季節風)の影響はわかりませんのでご回答できません。
	5.砂浜は貝殻などが多く含まれるので、陸の土砂も海から上がるのではないのか。	貝殻がどこから来るものなのかは、ご指摘のように土砂の移動を考える上でも重要な指標になる可能性もありますので、今後さらに調査をしていきたいと考えております。
生態について	6.ゴカイ類の調査	生物環境調査は実施予定です。
	7.カメのおかげでクラゲが少なかったのに、安全に泳げる海は残せるのか。	
	8.川から運んだ砂を浜に持ってきても硬くて穴が掘れない。産卵できないことは、カメの数の増加にとって大きなダメージ。	養浜に使う砂の質については、現在、川の砂を用いた試験養浜等を行っていますが、カメをはじめ海岸の生態系への影響も含めて調査検討の上、選定していきたいと考えます。
	9.離岸堤によってウミガメが来なくなるのでは?(生態系の崩壊)	

中項目	内 容	回 答
名称について	1. 提案 佐土原・住吉海岸とすべきでは。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	3. 名称 住吉海岸とひとくくりは抵抗感あり。佐土原では二ツ建(立)、大炊田、明神山海岸と名前がついている。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
名称	名称は住吉佐土原海岸	一つのご意見として参考にさせていただきます。
住吉海岸(仮称)の名称募集について	1.一ツ葉有料道路沿いにある海岸線だから、一ツ葉海岸がよいと思う。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
取り組み	1. 現在の砂浜の状況を考えると、早急な対策を要する。官民一体の具体運動が大事である。利害関係の調整が先決。(アカウミガメ、漁業、サーフィン等)	ご指摘の通り、早めの対策、様々な方との調整は重要なことと考えております。
	2. そもそも、この海岸を一ツ葉海岸と思っていました。検討委員会の行政に対する権利をもっと明確にして、地域住民の意見がもっとしっかりした裏付けのもと保障されるルールづくりが必要ではないでしょうか。	委員会や懇談会などにおける位置づけや各種ルールの設定は、ご意見を伺いながらつくっていききたいと思えます。
	3. 懇談会の位置づけについて。まちづくりをするにあたって、所有権に対し、利用権を認める前提が必要だと思うが、それが認められているのか。つまり懇談会の意見は反映されるのか。聞くだけなら利用されている気がするが…。	対立したご意見もありますので皆様の全てのご意見を反映することは現実的にできませんが、よりよい対策を行うためには幅広いご意見が必要であり、そのために懇談会等を行ってまいります。
	4. 莫大予算獲得のための政治的運動、住民の署名運動なども？	行政の立場としましてはコメントを差し控させていただきます。
懇談会の進め方	書くばかりで話をする時間がない。話をする会合をもつべきだ。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、意見を書いて張り出すというワークショップ形式とさせていただきます。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思えます。
	やり方ばかりの話で、海岸の話が何もされていない。いかさま法	限られた時間の中で、十分に意を尽くせなかったことはお詫び致します。ただ、今後ともご意見を伺う様々な場を持っていきたく思っておりますのでよろしくお願ひ致します。
	書くことよりも話し合う方が考えが深まる。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、意見を書いて張り出すというワークショップ形式とさせていただきます。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思えます。
	書くのが得意でない人は意見なしとみなされるのか。	これまでの一般的なやり方では、逆に、発言しない人が意見無しとみなされかねないことから、手法を変えましたことをご了承下さい。
	考えを深めないための目くらましの方法だ。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、意見を書いて張り出すというワークショップ形式とさせていただきます。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思えます。
	たくさんの紙を書いた人の意見が強くなるやり方だ。	意見の数でなく、中身をみております。みなさまにも中身でお考え頂ければと思えます。
	こんなにたくさんの紙をとっておくスペースがあるのか。いつまでとっておくつもりか。	具体的にいつまでかは決めておりませんが、当面はとっておくつもりです。
	意見を書く時間が長すぎる。	今後の進め方の参考にさせていただきます。
	貴重な懇談会の時間が話し合いの方法を説明するために費やされた。	今後の進め方の参考にさせていただきます。
たくさん意見を書いたが、それぞれに返事がほしい。必要なら国交省事務所にし向く。	ご質問の内容により回答する時期は異なりますが、基本的にはそれぞれ回答いたします	
懇談会の進め方	1.目的意識の確認。共有性のある情報開示、現場見学会の開催などできることはたくさんある。何十年同じやり方をしているのでしょうか。タイクツなので広がりがいいのでは。	多くの方に目的意識を共有いただきたいのはご指摘の通りですので、少しずつでもできることからやっていきたく思えます。
	2.そもそも宮崎市民のどれだけが海岸の浸食問題を理解しているのか。	現状について多くの方に知っていただく努力していきたく思っております。
	3.話し合い等、住吉海岸については、すべてオープンにして決めてほしい。	その方向であります。
	4.浸食対策について、いいと思われる意見は民間と学識経験者など集めてコンセンサスを取るべきでは。	そのような場として懇談会等を行っていきたく思えます。
プロセス・スケジュール 検討委員会・情報公開	検討委員会には生物の専門家だけでなく、生態学の専門家を入れなければ意味がない。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	検討委員会の委員に加えて欲しい。	防護、利用、環境を中心としたさまざまな観点から幅広い知見をお持ちで、かつ、客観的観点から判断ができる方にご参画頂く予定です。
	海岸問題を調査研究している人たちが、成果報告を市民向けにしているのを聞いたことがない。怠慢ではないか。	ホームページや、論文発表、シンポジウムでの発言等、様々な形で情報発信をされている研究者はいらっしゃると思えます。
	九十九里浜の鴨川市にあるような市民・サーファー・行政・研究者の円卓会議を作って欲しい。	意見交換の場の作り方も皆さんで考えが異なると思えますので、ご提案の方法も含めて考えたいと思えます。
	懇談会以外にも関心の高い人を集めた意見交換会を聞いて欲しい。	基本的には、私たちが主催する懇談会や説明会は多くの方が参加される会としたいと思えますが、建設的な話ができるのであれば、自主的に計画した意見交換会への参加等も含め出来る限り対応していきたく思えます。

	行政と完全に対立する気はない。もう少し上手に意見交換の場を作って欲しい。	意見交換の場の作り方も皆さんで考えが異なると思いますので、どのようにすればよいかご意見頂ければと思います。
	情報公開を求める。	その方向でおります。
予算について	H19年8月で予算要求なのに、8月に第1回検討委員会発足というのはおかしいのではないかと。	予算要求は、工事費用を確保するためだけに行うものではなく、各種調査や工法等の検討、調査機材の購入や、懇談会や委員会の開催経費などを得るためにも必要なものです。調査や工法等の検討は、懇談会などの場での判断材料を提供する上でも必要であることから、これを行うための予算も必要と考えております。
	本当に今日の住民の意見を取り入れていくのであれば、予算要求はもう1年見送るべきではないかと。	予算要求は、工事費用を確保するためだけに行うものではなく、各種調査や工法等の検討、調査機材の購入や、懇談会や委員会の開催経費などを得るためにも必要なものです。調査や工法等の検討は、懇談会などの場での判断材料を提供する上でも必要であることから、これを行うための予算も必要と考えております。
懇談会について	ワークショップ方式をする前に、3-4回考える時間が欲しい。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、ワークショップ形式とさせて頂きました。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思っております。
	検討委員会には地元住民、サーフィン団体、亀の保護団体、県職員、国交省職員、経済界など、多様な人材が机を囲めるようにしてほしい。	防護、利用、環境を中心としたさまざまな観点から幅広い知見をお持ちで、かつ、客観的観点から判断ができる方にご参画頂く予定です。
懇談会について	今回の意見を整理し、一回徹底的に1日かけても討論会をすべき。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、ワークショップ形式とさせて頂きました。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思っております。
	ワークショップのやり方は、意見が伝わりにくい。文だけでは伝わらない。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、ワークショップ形式とさせて頂きました。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思っております。
	意見がまとまってない人には、かきにくい。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、ワークショップ形式とさせて頂きました。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思っております。
	急いで工法を決めるより、もっと住民と対話して欲しい。サンドバックで仮護岸をして。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、ワークショップ形式とさせて頂きましたが、今後、皆様と対話できる機会を設けていきたいと考えております。
懇談会について	1.検討委員会の人選も住民の意向を取り入れてほしい。	委員会には、防護、利用、環境を中心としたさまざまな観点から幅広い知見をお持ちで、かつ、客観的観点から判断ができる方にご参画頂く予定です。また、委員会委員以外の皆様につきましても懇談会等で意見を伺っていきたくと考えております。
	2.九十九里浜の鴨川市には海岸問題を考える円卓会議がある。宮崎にも国交省の主導で作ってほしい。	意見交換の場の作り方も皆さんで考えが異なると思いますので、ご提案の方法も含めて考えたいと思っております。
	3.検討委員会の委員に入れてほしい、何らかの役に立てると思う。	防護、利用、環境を中心としたさまざまな観点から幅広い知見をお持ちで、かつ、客観的観点から判断ができる方にご参画頂く予定です。
	4.計画を策定するもっとも早い段階で、住民の意向を聞くような機会を作ってほしい。	今後の懇親会等の開催の参考にさせていただきます。
	5.前回と違い、今回は質問の時間をわざわざも作って下さったことに感謝します。	ありがとうございます。
	6.住民、サーファー、研究者、行政が知恵を出し合って話をする円卓会議が宮崎にもほしい。	意見交換の場の作り方も皆さんで考えが異なると思いますので、ご提案の方法も含めて考えたいと思っております。
情報発信方法	1.(有料でもいいので)広報誌等で発表して(HP以外で)。	検討していきます。
	2.県庁の情報公開するスペースを使って。	
	3.議論のプロセス、話し合いの方向性等分かり易く公開して。	わかりやすく提示できるように努力して参ります。
懇談会のあり方	1.この懇談会が、ただ聞き置くというだけの会でないよう希望する。(今までこのように処された会合があったため)	そのような会にするつもりはありません。
	2.急がず慌てずの対策。	強引に事業を進めないようにということかと思っております。そのようにしていきますが、一方で、その間にも侵食は進んでいることも意識する必要があると思っております。
	3.この場は有意義だと思う。	ありがとうございます。
	4.今までの行政のやり方はやめて。	そのように努めて参ります。
	5.全ての問いに回答を求める。	基本的にそのように致します。ただし、特定の個人や団体の誹謗、中傷ととれるもの等につきましては、回答致しかねますのでご了承下さい。
	6.今後意見の集約を図る方法として委員会形式になるようですが、合意形式のあり方に大きく影響を及ぼす委員の選出に地元の方を多くすべきである。	地元の方も、多様な立場の方にご参画頂く予定です。
委員会について	4. 委員会の構成は不公平感がないように色々な分野から。	多様な視点から検討をして頂くことを想定しておりますので、様々な分野の方で構成されるようにしていく予定です。
	1.対策を検討するためにも各種実験のデータを提供して欲しい。更には、会議参加者を絞る意味からも、特定(指名)された参加者に事前にデータ資料を送付し、検討してもらってとくと、より効果的	本事業に特化して行った実験データについてはご指摘の方向で考えます。また、希望される方にはデータの提供も検討しますが、送付にも費用がかかること、参加者を特定することは考えていないことから、提供方法は考えさせて頂きたいと思っております。
	2.来年度の予算5000万円は、どのような調査費として支出されるのでしょうか？	今年度の予算は、環境(海岸の植生、生物)や利用に関する基本的な調査、及び、工法選定に関する基本的検討に使用します。
	3.予算はついていないという事だが今回の前準備(パンフレット)にいっかけているのか？	パンフレットは3000部で約100万円(印刷、編集、校正料)、会場費は無料です。このほか、航空写真等にも費用がかかっていますが、今後も使用していく予定としております。

要望について

4.300億円もかけて、やることなのか？どうせお金をかけるなら自然を守ることに使ってほしい。	国土や資産を守ったり、カメが産卵できるだけの砂浜を確保したり等の観点から対策が必要と考えています。費用についてはさらに縮減できないか検討していきます。
5.この計画は、県議会で既に通っている話だが、今から計画がなくなることがあるのか？	ヘッドランド工法は議会承認を得ているわけではありません。海岸管理者として必要な提案を要望している段階です。
6.今回の懇談会で出た一人一人の意見はHPで公開されるのか、どのような形で公開されるのか？	記名は除きまして、記入いただいた付箋とそれを打ち直したファイルを公開しております。
7.国交省の方と本音で交流したい。H19は調査、検討のみということだが、どういうケースの場合検討のみで終わるのか？	調査、検討のみという説明をさせていただいたのは、本年度は具体的な工事の段階までには至らない、という趣旨です。
8.1回目に質疑応答の時間が無かったらしいが、せっかく「懇談会」であれば、直接やりとりする時間をワークショップ以外でも取り入れるのが基本。	今回の懇談会は、多くの人から多くの意見をまずは伺うことを主眼においたため、意見を書いて張り出すというワークショップ形式とさせて頂きました。ただ、進め方については、今回の方法にこだわるつもりはありませんので、内容等に応じて適宜変えていきたいと思えます。
9.本日の会議の目的が広すぎて、参加者からの提案レベルが広すぎる。「テーマ」と「参加者」に絞り込むべき。	今回の懇談会は、皆様がどのような点に特に興味をお持ちであるのか、どの点から話をしていくと良いのかを考えるという面もありました。今後は、今回のご意見を元にテーマを絞った説明会などを行いたいと思えます。
10.対策工事は景観に配慮されたと言うことですが、具体的認識を伺います。	
11.対策工事の検討から決定までの経緯を必ず公開してください。	委員会や懇談会等の場を通じて公開していきます。
12.県民が反対ならば、この工事の計画自体なくなるのか、工事ありきなのか？	海岸侵食対策は必要と考えており、そのため事業ですが、具体の対策についてはみなさまのご意見を伺いながら進めていきたいと思えますのでご了承頂きたいと思えます。
13.今後、住民の声がどのように反映されるのか？次回は技術的な委員会、その後は懇談会(説明会)となっていたが…	懇談会では委員会と懇談会が交互に行う予定であるという案を提示しましたが、これに固執するものではありませんので、適宜説明会なども行っていきたいと考えております。

中項目	内 容	回 答
その他	1. 養砂運搬車の増加による通学生の安全性。	工事が始まりましたら、砂の運搬車だけでなく、工事関係車両が走行することになります。この際の安全性の確保には十分配慮して行いたいと思います。
	2. ヘッドランドを「アソビ」の場としたい。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	3. 子どもたちが遊べて、思い出づくりができ、郷土を思う心の育成にもつながれば…。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
その他	10. 侵食の現状を行政は国民へ徹底して認識させ、自然破壊防止を訴えるべき。	侵食の状況については、今回のような懇談会やホームページなど、様々な形で伝えていきたいと考えております。
その他(その2)	2. 綾の照葉樹林を見習い、復元こそ目標とすべき。	復元というのは一つの目標ですが、どの時点への復元とするか、目標を設定するのは浜の幅だけでよいのか、松林など海岸周辺環境までを含めて考える必要があるかと思えます。目標のイメージがございましたらお教え頂けませんでしょうか。
その他(その3)	5. 数年前に突堤の設置が決まっていたが実行を速ぐべき。	現在の県の計画では、石崎浜に突堤を設ける計画がありますが、近年、状況が落ち着いていることや、国の事業化予定区間と重複していることから、今後、計画の変更につながるかと考えています。
その他	1. 海岸について思っていること。砂浜が少ない。遊び場が少ない。安心して海岸にいけない(人的危害が考えられる。犬の放置等)	少しでも改善できるようにしていきたいと思えます。ただ、人的危害というのがよくわかりませんので、今後の参考とするためにももしよろしければお教え頂けませんでしょうか。
	2. いろんな人に現況を知らせる手段を工夫する必要はある。	ホームページや懇談会会場を拠点とした情報提供などを図っていきたく思っておりますが、より良い方法がありましたらご意見頂けると幸いです。
	3. ワークショップで意見が出せてうれしく思います。	ありがとうございます。
	4. 子供達とのレク活動ができる場所ない。	以前は釣りやキャンプなどのレクリエーション活動を行えるような海岸であったと聞いておりますので、そのような場としても活用できる海岸とできるかどうかも含めて検討していきたいと思えます。
	5. 台風たいさくとして松林の増(増林)を年次的に計画して欲しい。	
	6. 大きな台風で一気に砂がなくならないか不安です。	場所によっては、一度の台風で砂浜が数十m単位で大幅に減少する場合がありますので、私たちも同様な懸念を持っております。
	7. 砂が減っていくのを見ると悲しく思えます。	私たちもそのように思えます。
その他	第一回の懇談会に続き第二、三回と会合を進めて欲しい。	今回とやり方は異なるかもしれませんが、皆様のご意見を伺う場は今後も継続的にもつ必要があると考えております。
	国は海岸法、基本計画、海洋基本計画に、海岸景観形成ガイドライン系の法律を熟読しているのか。	もし説明等を踏まえて勉強不足と思われた部分があったためのご指摘としましたら、申し訳ありませんでした。引き続き勉強して参ります。
	無駄な税金は使わないように。工事が無駄。耐用年数も限りある。	みなさまからお預かりしました税金を効果的に活用するべく対策を考えていきます。
その他	有料道路がこわれる。	ご指摘の通り、このまま侵食が進めばそのような可能性はあると考えられます。
	このごろ海岸に行っていないので、現況が分からない。	現況をお知らせする情報提供を今後していきたいと思えます。
	住吉海岸だけ、こんなにひどいのか。青島とかは砂は減っていないのか。	住吉海岸のような危機的な状況にはありませんが、昔と比較すれば侵食が進んでいます
	現在のままでと県民の生活に影響がでるのであれば、何か対策は必要だと思う。	私たちもそのような問題認識を持っております。
その他	1. ーツ葉人口ビーチのトイレ約9000万円かけて作ったことを、なぜ県は公表しないのか。	本懇談会の主旨とは関係ありませんのでこの場ではお答えしかねます。
	2. 工学、生物学者とのシンポジウムをしてほしい。	検討します。
	3. 地盤沈下で、佐土原町民は長年にわたり海水入り水道水を飲まされている。	水道水については、塩分濃度(塩化物イオン濃度)についても、定期的に水質検査を行っており、安全で安心な水道水の供給に努めています。また、取水口の年平均塩分濃度(塩化物イオン濃度)は、問題なくほぼ横ばいで推移しております。
	4. 国も県も市も「宮崎平野の地盤沈下」の情報を公開すべきだ。	環境白書で地盤沈下の情報を掲載しています。
	5. 国も県も市も堂々と「費用対効果」の情報公開をすべきだ。	基本的にご指摘の方向で考えております。
	6. 間もなく大地が陥没するのに「町づくり」と称し、護岸を作らせ海岸侵食の原因施設を保護するなど「港の利権」と関係するとは『国交省は問題のすり替え』だ。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
	7. 国鉄は偉い、止める勇気があった。	一つのご意見として参考にさせていただきます。
その他	1. 海岸研究室ありましたよね。	具体的にご意見の主旨を教えてくださいませんか。
	2. 宮崎の海を愛していますか。	そのつもりでおりますので、宮崎の海岸が良くなるような努力をしていきたいと考えております。
	3. 各課の連携はできているのか？ 河川⇄港湾⇄農林	連携は図っておりますが、今後より綿密にしていく必要があると考えております。